

送信先 報道各位
送信枚数 本紙を含めて3枚
送信日 2023年3月27日



『新アフリカ館(仮称)』グランドオープン！ 4/1(土)にオープニングセレモニーを開催します！

平素は当財団の事業につきまして、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、新規の動物飼育・展示施設としては11年ぶりとなる新たな施設がグランドオープンいたします。自然光を採光した明るい室内で、動物たちが空間を快適に利用できるよう設計しました。サバンナの俊足ランナー・パタスモンキーや、白黒の毛が美しいアビシニアコロブスなど、アフリカに生息する4種の霊長類をご覧いただけます。以下のとおりオープニングセレモニーを開催しますので、ぜひ貴メディアにて取り上げていただけますと幸いです。

◆オープニングセレモニー 概要◆

日時:2023年4月1日(土) 10:30～

場所:新アフリカ館(仮称)前

式次第: 開会あいさつ(所長 伊谷原一)
来賓あいさつ(親善大使 竹下景子)
新施設愛称発表・除幕
新施設の概要説明(附属動物園部部長 綿貫宏史朗)
鏡開き

来賓(予定): 女優・日本モンキーセンター親善大使 竹下景子様
犬山市立犬山中学校 校長 勝村偉公朗様
日本モンキーパーク 所長 小島智弘様
株式会社シンエイライフ 社長 田中孝昌様
澤田酒造株式会社 社長 澤田薫様

◆マスコミ向け内覧会 概要◆

日時:2023年4月1日(土) 9:30～ ※開園は10:00です

9:30～ 内覧会① 来賓の皆様が見学する様子を、施設外から撮影していただけます。
動物はまだ出ていません。

11:00頃～ 内覧会② 式典終了後、動物が展示場に出ている状態で撮影していただけます。
ご希望があれば、建物の内部(非公開部分)もご案内します。

本件に関するお問い合わせ先

※当日お越しいただいても取材可能ですが、事前に取材のお申し込みをいただくとスムーズです。

公益財団法人日本モンキーセンター 〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26
TEL:0568-61-2327 FAX:0568-62-6823 メール:info@j-monkey.jp
問い合わせ・取材申し込み担当:綿貫、赤見、田中、奥村

◆「新アフリカ館(仮称)」ご紹介

日本モンキーセンターでは、アフリカのサル類を飼育する旧「アフリカ館」が築 58 年となり、老朽化が進んできたため、動物たちが引っ越すことができる施設を新たに建てるべく、計画を進めてまいりました。約 5 年前より、動物にも、人にも快適な場所にするべく、全職員で構想を練ってきました。今回はその第一歩として、プラットホームとなる建屋が完成(2021 年度末)し、動物の飼育を開始しました。天井を高く取り自然光を採光した明るい室内で、動物たちが空間を快適に利用できるよう設計しました。飼育スタッフが作業しやすいような工夫も随所にしています。今後、この新施設を中心に、サルたちの迫力のある姿を引き出せるような展示施設にしていきたいと計画しています。

旧「アフリカ館」外観



「新アフリカ館」外観



◆飼育展示する動物 4 種

アフリカでも、主に草原や開けた環境に生息するパタスモンキーとマントヒヒ、熱帯雨林に生息するマンドリルとアビシニアコロブスを飼育展示します。



パタスモンキー



マントヒヒ



マンドリル



アビシニアコロブス

パタスモンキー…サバンナを駆ける霊長類最速ランナー。時速 55km という観察記録がある。走るために特殊化した四肢は、ひじとひざから先がすらりと長い。単雄複雌の群れでくらす。オスは背中中の褐色と腹側の白のコントラストが目だつ。

マントヒヒ…オスの肩から背にかけて、マントのような長い毛が生える。顔はピンク色でほかのヒヒと異なる。樹木のまばらな草原に生息し、夜は陰しい岩場で休む。単雄複雌の群れが集まって大集団をつくる、重層的な社会構造をもつ。

マンドリル…赤い鼻筋と両脇の青い部分に、黄色いあごひげのコントラストが目だつ。尻も赤と青のグラデーションが美しい。名前が似ているので、マントヒヒと混同されることがあるが、ヒヒとは別属である。マンドリル属は尾が短い。

アビシニアコロブス…黒い体に、背中を U 字型に縁どる白く長い毛が生え、尾の先に白い房毛をもつ。顔の周囲にも白い毛がある。赤ちゃんは真っ白で生まれ、生後 3~4 か月で親と同じ色になる。母親以外の個体が赤ちゃんを抱く行動が見られる。

屋内展示場（アビシニアコロブスの部屋）



樹上性のコロブスのために高いところに止まり木をつけています。将来的には、白黒の美しい毛並みをなびかせて高い木と木の間を飛び移るようすを観察できる展示施設「とぶ(仮)」とつなげる構想です。



「とぶ(仮)」イメージ

屋根

室内にも太陽の光が届くように、屋根の波板には透明な部分を入れました。屋内展示室や寝室は、いつも明るくさわやかです。



屋外展示場

建物の中央に2室あり、それぞれマンドリルとマントヒビがくらす予定です。大型のヒビのなかまの似ているところや違うところを見くらべてみましょう。動物が見やすいように、ステンレスの金網はギリギリまで細く、間隔を広くつくってもらいました。こだわりの天然岩が並ぶ土の地面や高くまで登れる台が備えられ、退屈させないような環境をめざしています。



新アフリカ館（仮）徹底解剖！！

2018年ごろより具体的に建設計画を進めてきた「新アフリカ館（仮）」がついにグランドオープンします！2023年4月1日にオープニングセレモニーを開催し、新施設のお披露目と愛称発表をする予定です（なのでひとまず施設名称は（仮）と呼ばせてください）。今号では、グランドオープンよりも一足先に、新施設の機能や工夫についてご紹介します。スタッフが込めた思いとこだわりの工夫をぜひご覧ください！



屋外展示場の植え込み

いわゆる“人止め柵”の内側には、犬山の環境でも生育可能で、南アフリカなどのやや乾いた気候帯（地中海性気候）の地域をイメージする植物を育てています。北向きの地面でうまく育ってくれるといいのですが・・・。



屋内展示場（パタスモンキーの部屋）



旧アフリカ館から最初に移動してきたのがパタスモンキーたちです。地面を走るのが得意な彼らのため、床にはあまりものを置かず、走り回れるようにしています。将来的には、全力で走るようすを観察できる展示施設「はしる(仮)」とつなげる構想です。



「はしる(仮)」イメージ

窓

屋内展示場には動物の足元まで見える大きな窓ガラス（強化ガラス）がつけられています。動物のほうの床をすこし高くしているため、あまり動物を見下ろすことなく、小さなお子さまにも間近に動物の迫力を感じていただけます。



ふたつの出入口

上と下の2か所の出入口で、おもての展示場と裏の寝室を行き来できるようになっています。ふたつあるのは、もし強い個体が弱い個体を追いかけたとしても、行き止まりの場所をつくらないための工夫です。低いほうの出入口は、高齢個体でも楽に行き来ができるようにという意図もあります。



水のタンク

飼育作業にはたくさんの水を使います。これは水を一時的に保管するためのタンクで災害などの非常時にも役立ちます。



ここからは非公開

寝室

建物の中には寝室が12室あるので、最大12グループを飼育できます。太陽光の入る明るい室内は、夏は風通しよく、冬は暖かくすごせることをめざして設計しました。隣り合う寝室どうしはスライドドアでつながっているため、お見合いをしたり、将来的に飼育グループ数が減ったときには部屋を連結して広く使うこともできます。



動物移動用通路（シュート）

向かいや遠くの寝室とはシュートでつながっています。動物を別の部屋に移動させるときにも、網で捕まえたり、麻酔をかけたりする必要がありません。シュートの高さは2メートルほどあり飼育員の頭上に位置するので、樹上性のサルたちのストレスも少ないと考えています。



何重もの扉や窓の格子

もし動物が寝室から出てしまっても、絶対に外まで逃げることはないよう、屋外や作業スペースから動物のいる場所までの間には何重にも扉があり、すべて安全確認をしながら開閉できるようになっています。

屋外運動場（裏側）

園路から見えない裏側にも屋外運動場があります。展示に出ていない動物も交代で外に出て、自然の光や風にあたることができます。



手作り工事

動物たちの快適で楽しい暮らしのためには、細やかな工夫が必要不可欠です。止まり木や寝棚の取り付け位置などの図面に起こせない工事や、安全のための調整など、飼育員が手分けして作業しました。



天井裏

天井の金網の上にはハシゴで上がることができます。屋根までの距離があるので直射日光による熱は伝わりにくく、冬はファンにより上層の暖気を攪拌できます。照明や空調機械などの管理もしやすく、動物たちのハンモックなどをつける作業も楽にできます。

ここからは非公開

斜めの床

掃除の水がすぐに流れて乾きやすいよう、床の傾斜を強めに作り直しました。高いところに落ち着いてすぐせる場所があれば、サルたちには問題ないようです。



調餌場

ここでくらす動物たちの食餌をつくるための小さなキッチンもあります。野菜や果物はここで切つてすぐに与えることができます。



扉の前の三角

飼育員が動物の展示場や運動場に入るための扉は斜めについています。これは、扉を開ける前に動物がなかに居残っていないかどうか確認するとき、全体を見渡すための工夫です。三角でおしゃれですね、と言われますが、たしかにちょっとかわいいかも。



未来構想

新施設の夢はまだまだ終わりません。この新アフリカ館（仮）をメインハウスに、パタスモンキーが走っている姿や、アビシニアコロブスが樹上をジャンプしている姿が見られるような、動物たちの迫力ある姿を伝えられるような魅力的な展示施設を広げていきたいと考えています。数年後にはこの夢が実現できるよう、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします！

裏側（見られません）

